



序文 Isabel Mortara

「たばこの煙から子どもたちを守るには」は国際対がん連合（UICC）が2008年2月4日の世界がんデー（World Cancer Day）に発行したものです。

UICCは3年前、多くの国々で他の重要な公衆衛生上の事項に比し二の次となっているがんとの闘いをスケールアップするため、世界がんキャンペーン（World Cancer Campaign）を始めました。

世界がんデー2007からは、子どもとがん予防に焦点をあててキャンペーンの第2期目が始まりました。「今日の子どもたちは明日の世界」は、両親、医療従事者や政策決定者を対象に4つの重要なメッセージを伝えるものです。

- たばこの煙のない環境を子どもたちに与える
- 健康に良い食事と運動に基づくエネルギーバランスのとれた生活習慣を広める
- 肝臓がんと子宮頸がんの原因ウイルスに対するワクチンについて学ぶ
- 「sun-smart（サン・スマート、太陽と上手につき合う）」によって、紫外線への過剰曝露を避けること子どもたちに教える

世界がんデー2008では、UICCは「私たちはたばこの煙のないきれいな空気が大好き（I love my smoke-free childhood）」というキャンペーンを始めました。これは、上記の4つのメッセージの1番目に注目し、子どもたちがたばこの煙にさらされずに成長することを目的としています。

世界の子どものほぼ半数の7億人の子どもたちが、たばこの煙で汚染された空気を吸っているのです。

メッセージは明確です：「受動喫煙は健康危害です。受動喫煙の曝露に安全なレベルはありません。子どもたちにたばこの煙のない生活を与えましょう。」

この報告書はその理由を説明しています。

UICCはがんとの闘いを世界的に主導している非政府組織で、UICCによるこの報告書は、今日の子ども

たち、すなわち明日の大人の健康に奉仕する対がん組織、たばこ規制組織、保健医療専門家、地域リーダー、そして政策決定者の活動のための重要な情報源となるでしょう。

UICCは報告書に寄稿された専門家の皆様、専門的知識を提供して下さった米国がん協会とジョンズ・ホプキンス・ブルームバーグ公衆衛生大学院（Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health）、そして執筆への財政援助をいただいたブルームバーグ財団に感謝いたします。

私たちはまた、米国疾病予防管理センター、GlaxoSmithKline、MDS、Merck、Pfizer およびファイザー財団の助成にも感謝しています。その惜しみない支援によって「今日の子どもたちは明日の世界」キャンペーンが実現しました。

WHO たばこ規制枠組条約（FCTC）(1)*は「たばこの煙にさらされることが死亡、疾病及び障害を引き起こす」と訴えています。UICCとそのメンバーは、国レベルで、そしてFCTCの枠組内で、たばこ規制の促進に寄与することを目指しています。

条約を批准した国々は、職場と公共の場所における受動喫煙への曝露に対し、法律で市民を守ろうとしています。

しかし、法律だけでは、曝露される可能性のある全ての場所—何よりも家庭におけるたばこの煙から子どもを守ることはできないのです。

子どもが吸う空気を確実にスモークフリー（たばこの煙がない状態）にするのに、子どもは両親や他の大人に頼らざるを得ないのです。

この専門家報告書は、もし受動喫煙の有害な影響から子どもを守ろうとするならば、私たち—いえ、私たち全てがなすべきことを包括的に示しています。

* 文献については、p35を参照。